

■8月30日

成田空港、7月、国際線旅客数、前年比3%増、国内線旅客数、55%増

成田国際空港(NAA)は29日、2013年7月の空港運用状況を発表した。国際線旅客数は前年比3%増の271万5839人となった。日本人旅客は5%減の133万9908人、外国人旅客は19%増の83万4089人で、通過客は1%増の205万162人だった。

中国線の出国旅客数は前年比18%減、8月も24日までの速報値で12%減となった。一方、韓国線は7月が2%減、8月の速報値で1%増と増加。NAAでは需要が回復傾向にあることと、チェジュ航空の成田—仁川線の新規就航で増加したと分析している。

一方、国内線は旅客数が55%増の44万207人、旅客便発着回数が48%増の4092回だった。旅客数、発着回数共に日系LCCの新規就航や増便、スカイマークの石垣線就航などにより、過去最高となっている。

(トラベルビジョン)8/29

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58703> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58703>)

(NAAプレスリリース)8/29

http://www.naa.jp/jp/airport/pdf/unyou/y_2013.pdf (-> http://www.naa.jp/jp/airport/pdf/unyou/y_2013.pdf)

全日空、セントレアから貨物定期便就航、「沖縄貨物ハブ」拡充開始

全日空の貨物定期便が29日、愛知県常滑市の中部国際空港から5年半ぶりに就航し、那覇空港に設けた国際物流基地「沖縄貨物ハブ」の貨物路線を拡充が始まった。

中部線は貨物専用機「ボーイング767—300F」を使い、週6便を運航する29日に中部国際空港を結ぶ路線(週6便)を就航したほか、10月27日から、中国・青島線も週6便を運航する計画。このほか、今年度中に東南アジアの1~2カ所との路線も就航する予定だ。

同社は年内をメドに、貨物事業専門の新会社を立ち上げ、来年4月に貨物事業を新会社に移管する方針。沖縄ハブを活用し、アジアの航空貨物事業を強化する。

(日経)8/30

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO59081590Z20C13A8LX0000/> (->

<http://www.nikkei.com/article/DGXNZO59081590Z20C13A8LX0000/>)

国交省、「着陸料にかかる提案割引制度」導入方針、最大8割軽減

国交省は、来年度から、実質的に羽田空港以外の国管理空港を発着する便を対象として、「着陸料にかかる提案割引制度」を導入する。また、羽田空港の深夜早朝時間帯における国際線旅客便の着陸料について、新規就航や増便した場合に着陸料を軽減する措置を新設する。日刊航空が報じた。

「着陸料にかかる提案割引制度」は、新規就航または増便を行った場合を対象に、着陸料を1年目に80%軽減、2年目は半額化、3年目は30%の軽減を行うもの。ただし、同制度を受けるには、地方自治体等からの提案が必要となる。

羽田空港の深夜早朝時間帯における国際線旅客便の着陸料については、1年目80%、2年目50%、3年目30%の軽減率とする。

同省は来年度から「地方航空路線活性化プログラム」として、地方路線に対するモデル的な取り組みに補助を交付するなどの施策を講じる。着陸料の提案割引制度や小型機の着陸料・航援料の軽減もこのプログラムの一環。

(日刊航空)8/29

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

カンタス航空、2013年6月通期決算、黒字回復

カンタス航空の2013年6月通期決算は黒字を回復した。国内の競争が激化する中で、アラブ首長国連邦(UAE)のエミレーツ航空との提携が長距離路線の赤字抑制に寄与した。bloombergが報じた。

29日の当局への届け出によると、純利益は500万豪ドル(約4億3800万円)。前期の純損益は2億4500万豪ドルの赤字だった。

同社によれば、国際部門の一部項目を除く利払い・税引き前損益は2億4600万豪ドルの赤字と、赤字幅は前年の4億8400万豪ドルから縮小。国内部門の利払い・税引き前利益(EBIT)は21%減の3億6500万豪ドル。

(bloomberg)8/29

<http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MS9KNR6JJV101.html> (-> <http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MS9KNR6JJV101.html>)

ボーイング、パイロット・整備士の必要人数予測、今後20年間

(レスポンスによると)

ボーイングは8月29日、商用航空産業が今後20年間に新しい航空機の納入の拡大要求をサポートする為、100万人以上のパイロットと整備士が必要となる予測を発表した。

この日、マイアミにあるボーイング飛行サービスのキャンパスで行われた、787飛行トレーニングのイベントで、同社は2013年度のパイロット及び整備士の見通しをリリースした。

ボーイングのアウトルックは、2032年までに世界は49万8000人の新しい商用航空機パイロットと、55万6000人の新しい商用航空整備士を要求することを示唆している。

さらに地域別の要求については、以下の通り予想されている。

アジア太平洋地域: 19万2300人のパイロットと21万5300人の航空整備士

欧州: 9万9700人のパイロットと10万8200人の航空整備士

北米: 8万5700人のパイロットと9万7900人の航空整備士

南米: 4万8600人のパイロットと4万7600人の航空整備士

中東: 4万人のパイロットと5万3100人の航空整備士

アフリカ: 1万6500人のパイロットと1万5900人の航空整備士

ロシアとCIS: 1万5200人のパイロットと1万8000人の航空整備士

(レスポンス)8/30

<http://response.jp/article/2013/08/30/205270.html> (-> <http://response.jp/article/2013/08/30/205270.html>)